

木俣元一教授 略歴・業績

〈略 歴〉

- 1980年 3月 名古屋大学文学部卒業
1982年 3月 名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程修了
1987年 5月 パリ第1大学（パンテオン＝ソルボンヌ）博士課程修了（博士学位取得）
1987年 4月 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程中退
1987年 5月 名古屋大学文学部助手
1991年10月 名古屋大学大学院文学研究科助教授
2003年 5月 名古屋大学大学院文学研究科教授
2003年12月 博士（文学）取得
2017年 5月 名古屋大学大学院人文学研究科教授

〈業 績〉

著 書

- 1 『芸術学フォーラム 第3巻 西洋美術』（共著）勁草書房 1992年.
- 2 『曼荼羅と輪廻—その思想と美術』（共著）佼成出版社 1993年.
- 3 『西洋美術史ハンドブック』（共著）新書館 1997年.
- 4 『世界美術全集 第7巻 西欧初期中世の美術』（共著）小学館 1996年.
- 5 『西洋美術館』（共編著）小学館 1999年.
- 6 『大聖堂物語—ゴシックの建築と美術』（共著）河出書房新社 2000年.
- 7 『シャルトル大聖堂のステンドグラス』（単著）中央公論美術出版 2003年.
- 8 『フランス—ロマネスクを巡る旅』（共著）新潮社 2004年.
- 9 『フランス—ゴシックを仰ぐ旅』（共著）新潮社 2005年.
- 10 『パリー—中世の美と出会う旅』（共著）新潮社 2008年.
- 11 『芸術のトボス』（共著）（「ヨーロッパの中世」シリーズ）岩波書店 2009年.
- 12 『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』（共著）ミネルヴァ書房 2013年.
- 13 『ゴシックの視覚宇宙』（単著）名古屋大学出版会 2013年.
- 14 『人文知3—境界と交流』（共著）東京大学出版会 2014年.
- 15 『西洋美術の歴史 中世II ロマネスクとゴシックの宇宙』（共著）中央公論新社 2017年.
- 16 『西洋美術史における古典の創出』（共編著）中央公論美術出版 2021年.
- 17 『西洋美術史』（共著）美術出版社 2021年.
- 18 『ゴシック新論—排除されたものの考古学』（単著）名古屋大学出版会 2022年.
- 19 『宗教遺産テキスト学の創成』（共編著）勉誠出版 2022年.
- 20 『聖性の物質性—人類学と美術史の交わる場所』（共編著）三元社 2022年.
- 21 『ボイス / リーダー』（共著）豊田市美術館 2022年.

論 文

- 1 「シャルトル大聖堂『王の扉口』彫刻群における造形原理に関する試論』『美学美術史研究論集』2 (1983), pp. 65-91.
- 2 « Les fragments de colonnettes sculptées de Saint-Denis. » 『名古屋大学文学部研究論集』102 (1988), pp. 107-124.
- 3 「シャルトル大聖堂『王の扉口』装飾円柱』『美術史』(美術史学会編) 125 (1989), pp. 1-16.
- 4 「サン＝タルヌー＝アン＝ニヴリーヌの12世紀の彫刻』『名古屋大学文学部研究論集』105 (1989), pp. 211-231.
- 5 「初期ゴシック彫刻における天蓋(キャノピー)モチーフについて(上)」『名古屋大学文学部研究論集』108 (1990), pp. 215-236.
- 6 「初期ゴシック彫刻における天蓋(キャノピー)モチーフについて(下)」『名古屋大学文学部研究論集』111 (1991), pp. 155-174.
- 7 「天上の王宮の建築家、使徒トマス：13世紀フランスにおける凶像表現の展開』『OGIVE オジーヴ 飯田喜四郎博士献呈論文集』飯田喜四郎博士献呈論文集刊行会 1991年, pp. 53-84.
- 8 「シャルトル大聖堂、使徒トマスのステンド・グラス：物語表現の諸相』『インド学・密教学研究：宮坂有勝博士古希記念論文集』法蔵館 1993年, pp. 1349-1386.
- 9 「ゴシックのステンド・グラスを読む』『民族藝術』(民族藝術学会編) 10 (1994), pp. 51-61.
- 10 「シャルトル大聖堂地階のステンド・グラスにおける幾何学的構成と分節システム：カタログ』『名古屋大学古川総合研究資料館報告』10 (1994), pp. 79-101.
- 11 「シャルトル大聖堂におけるステンド・グラスの分節システム』『美学美術史研究論集』12 (1994), pp. 23-40.
- 12 「シャルトル大聖堂のステンド・グラスにおける分節システムとクロノロジー：今後の研究に向けての覚え書き』『名古屋大学文学部研究論集』123 (1995), pp. 197-215.
- 13 「ステンド・グラスの幾何学的構成に関する二、三の考察』『美学美術史研究論集』13 (1995), pp. 1-14.
- 14 「シャルトル大聖堂《聖レオピヌス伝》の窓に関する予備的考察—場面構成の観点から—』『名古屋大学古川総合研究資料館報告』11 (1995), pp. 55-78.
- 15 「物語・比喩・寓意—シャルトル大聖堂《放蕩息子の譬え話》の窓』『美術史における軌跡と波紋 辻佐保先生献呈論文集』中央公論美術出版 1996年, pp. 163-184.
- 16 「シャルトル大聖堂におけるステンド・グラスの配置に関する試論：分節システムと幾何学的構成の観点から』『名古屋大学文学部研究論集』126 (1996), pp. 155-172.
- 17 「シャルトル大聖堂のステンド・グラスにおける『寄進者像』の再解釈』『鹿島美術研究』年報第15号 別冊 (1998), pp. 199-213.
- 18 「Pro lectione pictura est? グレゴリウス1世, イメージ, テキスト』『西洋美術研究』(三元社) 1 (1999), pp. 155-163.
- 19 「署名、あるいは作品の外縁に関する考察』『日仏美術学会会報』19 (1999), pp. 88-89.

- 20 « Interprétation des sculptures du XIIe siècle à Saint-Arnoult-en-Yvelines », *Utilis est lapis in structura: Mélanges offerts à Léon Pressouyre*, Paris: Comité des travaux historiques et scientifiques, 2000, pp. 25–34.
- 21 「シャルトル大聖堂のステンドグラスにおける聖像と偶像—1200年前後のカトリック教会とイメージ」『西洋美術研究』3 (2000), pp. 34–58.
- 22 「聖ニコラウス像を罰するユダヤ教徒—1200年前後のカトリック教会におけるポレミカルな図像」『西洋美術研究』6 (2001), pp. 22–34.
- 23 「西洋中世美術におけるイメージ言語」『統合テキスト科学の構築 討議資料』1 (2003), pp. 53–59.
- 24 « Du style gothique et du Gothic Revival dans la Toile Monogramme », *Étude sur le monogramme Louis Vuitton. Rapport final*, Tokyo, 2005, pp. 17–32.
- 25 « Le temps dans l'art médiéval: logique narrative et fonction anachronique », *Image et texte dans l'art religieux*, Nagoya, 2005, pp. 27–35.
- 26 「図像テキストの濃密性と体系性」『統合テキスト科学の地平』2007, pp. 159–218.
- 27 « Le vitrail de saint Lubin à la cathédrale de Chartres: hagiographie et thèmes eucharistiques au début du XIIIe siècle », *Histoire-Fiction-Représentation: Proceedings of the Eighth International Conference, Studies for the Integrated Text Science*, Aix-en-Provence-Nagoya, 2007, pp. 147–154.
- 28 「イェルサレム・コンスタンティノポリス・パリーサント＝シャペルとその装飾」『西洋美術研究』14 (2008), pp. 33–53.
- 29 「ウェロニカと印章：『グルベンキアン黙示録』の一挿絵をめぐる」『美学美術史研究論集』24 (2010), pp. 59–92.
- 30 「メディアとしての聖顔」『西洋中世研究』(西洋中世学会) 2 (2010), pp. 21–35.
- 31 「『顔と顔とを合わせて』—聖顔・痕跡・ヴィジョン」『死生学研究』16 (2011), pp. 121–131.
- 32 « 'Facies ad Faciem': Holy Face, Imprints, Visions », *Bulletin of Death and Life Studies*, 16 (2012), pp. 117–131.
- 33 「キリスト教図像の規範と自由をめぐる一考察：13世紀における『詩編』109編のイニシアル装飾と「詩編の三位一体」」『西洋美術研究』(三元社) 16 (2012), pp. 65–84.
- 34 « Une lecture du thème de l' amour dans La Dame à la licorne: Autour de la Vue et de Le Toucher », *La Dame à la licorne et l'art européen autour de 1500 dans les collections du musée de Cluny*, Paris, Tokyo: The National Art Center, 2013, pp. 167–169.
- 35 「『ゲッティ黙示録』の挿絵における枠とヨハネの幻視」中村靖子編著『虚構の形而上学—「あること」と「ないこと」のあいだで』春風社 2015, pp. 83–131.
- 36 「中世図像学の展開—デイドロンからシャピロまで」『西洋美術研究』(三元社) 20 (2020), pp. 27–48.

科学研究費（研究代表者）

- 1 1995–1996年度：「シャルトル大聖堂のステンド・グラスにおける「譬え話」の物語表現に関する研究」（基盤研究 (C)）

- 2 2001-2002年度：「シャルトル大聖堂のステンドグラスにおける図像プログラムに関する研究」(基盤研究(C))
- 3 2003-2004年度：「西洋中世美術におけるイメージ言語とタイポロジー：図像テキストの生成・解釈・機能」(基盤研究(C))
- 4 2005-2007年度：「西洋中世におけるイメージの複製と権力」(基盤研究(C))
- 5 2008-2010年度：「印章と刻印のメタファー：西洋中世におけるイメージと視覚性に関する研究」(基盤研究(C))
- 6 2011-2013年度：「13世紀イギリスにおける聖顔信仰の成立と展開：イメージと宗教的実践に関する研究」(基盤研究(C))
- 7 2015-2017年度：「初期及び盛期ゴシック聖堂における総合的展示プログラムの成立と展開研」(基盤研究(C))
- 8 2019-2023年度：「キリスト教美術におけるイメージの意味と物質性：新たな図像学の構想に向けて」(基盤研究(B))